

未来の鎌倉にふさわしい本庁舎を目指しています

鎌倉市公共施設 再編計画NEWS

No.26

2019年9月発行

令和10年度の開庁に向けて、新たな本庁舎の「基本構想」を策定しました！

鎌倉市では、築50年を迎える現在の本庁舎の移転整備に取り組んでいます。このたび、新たな本庁舎のあるべき姿や、これまでの検討経緯、今後のスケジュールなどをまとめた「鎌倉市本庁舎等整備基本構想」を7月に策定しました。内容は、概要版（添付）をご覧ください。

今後は、深沢地域整備事業（土地区画整理事業）と連携しながら、令和10年度（2028年度）の開庁を目指して取り組んでまいります。さらに、並行して鎌倉市役所（現在地）の利活用についても、今年度から基本構想策定に向けた検討を開始する予定です。

表 整備スケジュール（イメージ）

（年度）

	2018 H30	2019 H31/R元 (今年度)	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10
本庁舎等 整備事業	基本構想 策定作業	基本 計画 策定 作業		基本 設計	募集 準備	事業者等 選定	事業者 設計・ 手続		事業者 工事		開庁 予定
現在地の 利活用		基本構想 策定作業		基本計画、事業手法の検討や 基本設計を行う期間			PPP/PFIなどの事業手法による 事業者選定・手続・設計等を行う期間			工事	
その他			オリ・パラ	都市計画 決定 (深沢)				大阪万博			

今ココ

：事業手法（例：従来方式、PFI方式）などにより異なるため、関係する事業の進捗に併せて、今後、検討していきます。



基本構想（素案）に対する貴重なご意見をありがとうございました！

「鎌倉市本庁舎等整備基本構想」の策定に当たっては、広く市民等の皆さまからのご意見をいただく意見公募手続（パブリックコメント）を行いました。ご意見をお寄せくださり、ありがとうございました。結果については、市ホームページで公開しています。

URL http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/pubcom_kousou.html



「鎌倉市本庁舎等整備基本構想（素案）」に対する意見公募の結果について

募集期間：平成31年（2019年）4月20日から令和元年（2019年）5月19日まで

募集の告知：市ホームページ、広報誌、SNSへの掲載、本庁舎・各支所・各図書館・担当課窓口での冊子配布

受付方法：郵送、FAX、メール、回収箱に投函、直接持込、電子受付

意見の総数：120通（居住内訳：鎌倉58通、大船17通、腰越16通、深沢14通、玉縄13通、その他2通）

公開で行っている有識者等からなる整備委員会。第6回を行いました！

6月26日に第6回鎌倉市本庁舎等整備委員会を開催しました。「鎌倉市本庁舎等整備基本構想(素案)」のパブリックコメントの内容や答申に向けた「鎌倉市本庁舎等整備基本構想(案)」について、活発な意見交換が行われました。意見を踏まえて、基本構想(案)の修正を行った後、7月12日に、整備委員会から、整備委員会の最終意見となる「答申」が市に提出されました。

委員会で交わされた意見

パブリックコメントについて

- ・非常に詳細に意見をいただいております、市民の方々が非常に真剣に考えていると感じた。
- ・大船、深沢、腰越地区の方々の意見があまりなかった。今後は、どの地域からも活発に意見が上ってくるように進めてもらえるとよい。
- ・意見の総数120通はだいぶ少ないと思った。

基本構想(案)などについて

- ・東日本大震災で市庁舎等が被害に遭った市町村は、復興も遅れている。防災は、ある程度比重を占めて考えていかないといけない。
- ・パブコメを読むと、期待と不安が両方ある。今後、市全体のまちづくり、公共施設の再編計画とそれに伴う公共スペースや公共サービスの提供のあり方の変化が見えて、その中で市庁舎の役割がより明確になっていくとよい。
- ・消防本部、総合体育館、公園等との連動、連携も非常に重要。また、深沢全体が今後どう動いていくのかが、コンパクトで効率的、なおかつ魅力的な市庁舎づくりには欠かせないものになる。



整備委員会メンバー

- | | |
|------|--|
| 委員長 | 国吉 直行 (横浜市立大学国際マネジメント研究科客員教授) |
| 副委員長 | 川口 和英 (東京都市大学都市生活学部学部長) |
| 委員 | 関根 正人 (早稲田大学理工学術院教授) |
| 委員 | 増井 玲子 (東洋大学 PPP 研究センターリサーチパートナー) |
| 委員 | 酒井 太郎 (医師 さかい内科・胃腸科クリニック院長) |
| 委員 | 大島 智 (鎌倉商工会議所議員) |
| 委員 | 後藤 和幸
(特定非営利活動法人鎌倉市市民活動センター運営会議正会員) |
| 委員 | 西野 奈津子
(一般社団法人子育てこころがけ湘南代表理事) |
| 委員 | 正木 重郎 (鎌倉市自治町内会総連合会会長) |
| 委員 | 森安 啓司
(一般社団法人神奈川県建築士事務所協会鎌倉支部支部長) |

まちのことを、ジブンゴトに。「出前講座」承ります！

市民の皆さんに本庁舎整備の取組状況を直接お知らせするため、基本構想の検討に当たっては、市長や職員が説明に伺う出前講座(市長出前講座4回66名、出前講座7回209名)を実施してきました。また、アンケート調査や市民対話(延べ107名)を通じて市民の皆さんの意向把握を図ってきました。また、公共施設再編計画NEWSや広報かまくらを通じて、本庁舎整備に向けた取組についての検討経緯や検討状況の周知を図っています。



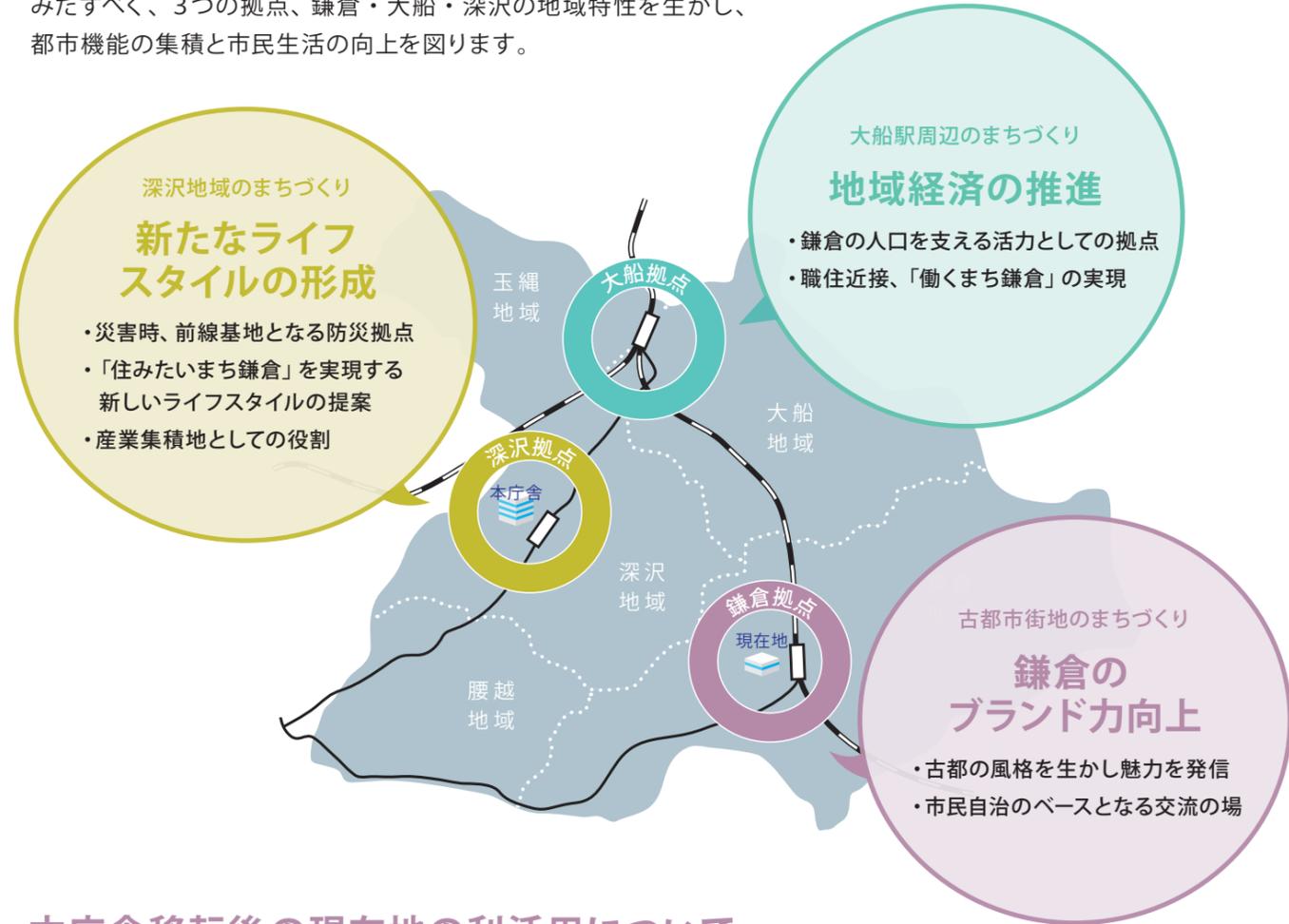
出前講座に関するお問合せはこちらまで！

発行者：鎌倉市 行政経営部 公的不動産活用課 公的不動産活用担当
電話：0467-23-3000 (内線 2565)
URL：<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/facility.html>



本庁舎づくりと鎌倉のまちづくり

鎌倉市全体の生活・文化・経済の向上につながる波及効果を生みだすべく、3つの拠点、鎌倉・大船・深沢の地域特性を生かし、都市機能の集積と市民生活の向上を図ります。



本庁舎移転後の現在地の利活用について

「公的不動産利活用推進方針（平成30年（2018年）策定）」において、現在地は、「市民サービスの提供・公共施設再編^{*}と民間機能の導入による賑わいや憩いの創出」としてあります。今後、市民の意見等を伺いながら、具体的な検討を進めていく予定です。

^{*}窓口機能の維持のほか、ホール（生涯学習センター）や図書館などの導入により、市民活動等の拠点化を目指します。



基本構想の記載事項

本編では、最新の情報を用いて行った災害リスクに関する再検証結果や、本庁舎整備に向けた今後の進め方やスケジュールなども掲載しています。詳しくは、こちらをご覧ください。

「鎌倉市本庁舎等整備基本構想（本庁舎整備の検討経緯に関する情報・発行物等）」
<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/hontyosya-hakko.html>

発行者：鎌倉市 行政経営部 公的不動産活用課 公的不動産活用担当
 電話：0467-23-3000（内線 2565）
 URL: <https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/facility.html>

「出前講座」承ります！
 身近な公共施設に関することは、「自分ごと」として知っていただきたいと思っています。取組内容について、自治町内会の会合などの場で職員が説明いたします。お気軽にお問い合わせください！

本庁舎づくりの「今」 鎌倉市本庁舎等整備基本構想 概要版

市制80周年を迎える中、次の時代を見据えた本庁舎づくりに取り組んでいます

本庁舎づくりの基本となる考え方

ビジョンと6つの要素

基本理念

基本方針

市民対話や、有識者等からなる「鎌倉市本庁舎等整備委員会」などの意見を広く聴き、本庁舎づくりの基本となる考え方であるビジョン（基本理念）と6つの要素（基本方針）をまとめました。

誰もが利用しやすい

User-Friendly

市民に寄り添った対応ができる

Personalized

人や民間資金を呼び込む

Community-Building

災害時に頼れる

Reliable

コンパクトで効率的

Efficient

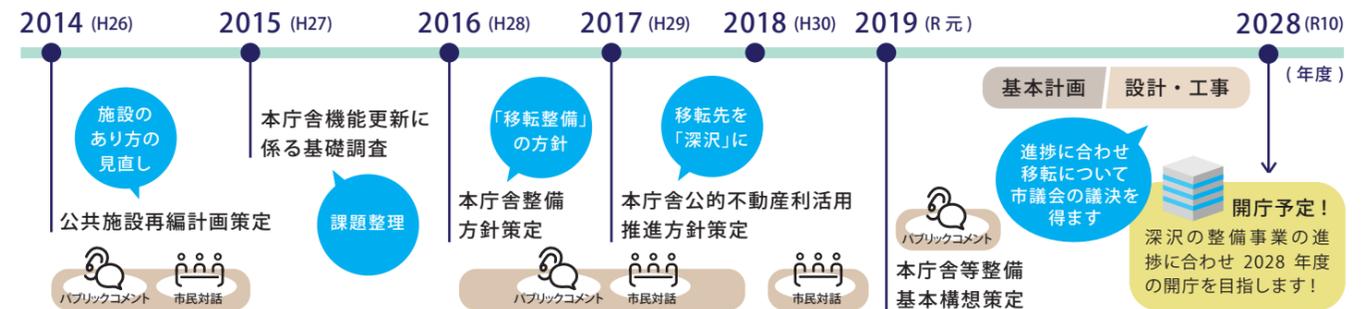
市民のつながりを生かせる

Connected

市民のニーズや社会情勢の変化に応えるコンパクトな本庁舎

検討を重ねて生まれた新たな本庁舎のビジョンの実現に向けて、本庁舎づくりが動き出します！

平成27年（2015年）から、本庁舎整備に向けた具体的な検討を始め、これまで市民対話やシンポジウムなどを行ってきた中で、多様なご意見をいただきながら、検討を進めてきました。



詳しくは中面へ

ビジョンと6つの要素

ビジョン

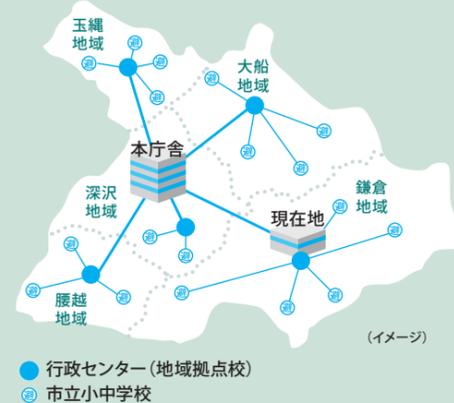
市民のニーズや社会情勢の変化に応えるコンパクトな本庁舎

- ・機能的で、社会情勢の変化に柔軟に対応できる
- ・質の高い行政サービスを提供する場

1 堅固な建物で災害時に頼れる

- ・災害時に市民の生命を守る前線基地
- ・発災後に業務継続ができる堅固な建物

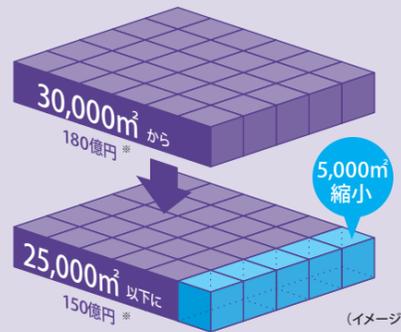
災害時には前線基地となる堅固な本庁舎と各地域の行政センターが連携する防災ネットワークを形成し、市全体の防災対応力を高めます。



2 最小限の機能を備えコンパクトで効率的

- ・利用者の利便性を重視
- ・効率的なスペース利用

未来を見据えた柔軟な空間設計を目指します。



※ 建設単価60万円/m²で試算。今後変動する可能性があります。

3 鎌倉の自然や歴史を感じ、市民のつながりを生かせる

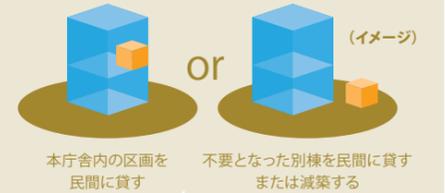
- ・市固有の自然や歴史を感じられる空間
- ・市民同士がつながる市民活動ネットワークの形成



情報発信のスペースを確保し、市民のつながりを生かせる本庁舎を目指します。

4 人や民間資金を呼び込む

- ・ふらっと立ち寄りたくなる場所
- ・民間活力の導入などにより財政負担を抑制



将来にわたって有効に活用できる本庁舎を目指します。

5 市民に寄り添った対応ができる

- ・学びや交流、子育て、起業支援など多様なニーズに応える
- ・豊かな市民生活の実現につながる場



市民の多種多様なニーズに応えられる場や機能を持った本庁舎を目指します。

6 誰もが利用しやすい

- ・ユニバーサルデザインやバリアフリーの実現
- ・来庁者の多様性に配慮した窓口機能



来庁者の多様性に配慮した窓口を目指します。

築50年を迎える現在の本庁舎が直面する3つの課題

1 利用しにくい!

- ・スペースが狭く、プライバシー保護が不十分
- ・ユニバーサルデザインやバリアフリーへの対応の限界
- ・セキュリティ対策への不安

2 効率が悪い!

- ・執務室の分散化による市民利用への支障の発生
- ・狭あいで非効率な執務スペース

3 心配だ!

- ・震度6クラスの地震後の機能不全への懸念
- ・市民の命を守る前線基地として迅速な復旧・復興を支える必要性
- ・進む老朽化